

放課後等デイサービス自己評価表・保護者向け評価表実施報告書

保護者各位

平成 31 年 2 月 20 日

社会福祉法人つみき

つみき第 7

管理者 佐藤顕紀

放課後等デイサービスガイドラインに基づき、下記のとおり自己評価・保護者からの評価を実施しましたのでご報告いたします。

記

1、実施概要

自己評価表：管理者 1 名・常勤職員 2 名・非常勤職員 2 名（合計 5 名）
を対象に実施。

実施日：平成 30 年 12 月 21 日

保護者向け評価表：利用者保護者 20 名を対象に実施（有効回答 13 件）

実施期間：平成 30 年 12 月 22 日～平成 31 年 1 月 11 日

2、評価方法

○職員から回収した評価表を集計の上、職員間で討議し、項目ごとに課題や工夫している点について認識をすり合わせる。

○討議の際は保護者向けの結果を十分に踏まえ、職員の認識と保護者の認識のずれを客観的に分析。

○職員間で認識が共有された課題について、改善目標を立案。

3、公表方法

○「改善目標」「工夫している点」の主なものについて、ホームページにてできるだけ詳細に公表（年内予定）。

○保護者向けの結果については、書面にて保護者・職員に公表。

以下、公表内容

4、工夫している点

【設問 3】事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切にされているか。

…（保護者向け結果を踏まえて）「階段が急である」「出入口の階段が急なので、気をつけないと転びそう」という意見と、「対象としている子どもの状況をみるとスロープは必要ないと思います」という意見が有り。ビルの共用階段（エレベーター無し）である為、スロープを付ける事は現実的に難しいが、片側に手すりが有り、階段毎の角には滑り防止のラバーも付いている状態。又、利用者の2/3以上は自主登所の状態で、肢体不自由の利用者もいない為、現状は維持する一方、開所時にあった階段周りの危険物（消火器、他店舗の置物等）を移動させたり、階段付近は昼間でも斜光があまり入らずに暗い為、三か所の蛍光灯・電球は常時点灯させ、1つでも点かなくなった（切れた）際はビルの管理人に到達、不具合を解消してもらおう等の、転倒や事故防止につながる安全面の環境整備、配慮は行っている。

【設問 5】活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。

…（保護者向け結果を踏まえて）「職業体験とかできるといいなと思います」との意見有り。利用児が通っている一部の学校では、「キッズニア」へ行ったり、作業所等の実習体験で接客や袋詰め作業を学んだりする機会はある。施設の活動プログラムに職業体験を取り入れるのは難しいが、社会性を身に付ける為の一環としてや、公文式学習以外のプログラムのバリエーションとして、おやつや本、玩具類等の買い物や、電車を使った外出活動の際に、会計係を子どもが担い、店員やレジスター、券売機に、支払う金額に見合ったお金を出す実地練習は行っている。又、公文式学習には成績表への記入やファイル綴じの作業が毎回有る為、プリントのページ順や表裏を意識して揃えたり、成績表に決められた作法で記入する事も、大切なスキル習得と考えて行っている。ファイルの穴に紐を通したり、結ぶのが苦手な子どもにはスタッフが付き添ったり、段階的に紐の長さを替える等して、少しずつ自分で出来る範囲が広がるように配慮（実例として、既成のものより2倍以上長い靴用の紐を転用する工夫により、結び方を理解して既成の紐でも出来るようになったり、マジックテープのシューズから、紐靴を履ける事が可能になった利用者もいる）。又、公文式学習+学校の宿題・自習ドリル等以外で余った時間内に、パズルや数字盤、点つなぎ等、各々がやりたい知育教材を選んで取り組み、45分の学習時間を意欲的に集中して過ごす工夫を行っている。他にも、おやつ作りや工作、公園遊び等、集団活動のプログラムも頻繁に設けて、固定化しないように配慮をしている。

【設問 8】日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか。

…（保護者向け結果を踏まえて）「子どもに問題が有り、家に帰ってから書類等の提出が出来ていない」「子どもが自分で通所しているから自分が行った時のみが多いです」といった意見有り。送り迎えで会える保護者（全体の 1/3 以下）には、その日の学習進度や様子等を（必要時は成績表も見せて）伝えている。自主登所の利用者には、その日のサービス提供記録を活動毎に渡しているものの、書く内容には限りがある為、細かい状況や課題の共通理解は難しいのが現状。その為、半期に 1 度の個別支援計画と日々のサービス提供記録で書式での伝達以外では、年に 1 度、保護者対象の個別面談と活動報告会の場を設けて、子どもの状況を直接的に伝え合う機会としている。又、保護者から預かった私用の学習ドリルの取り組みを子どもに促したり（正誤のチェックも代行）、「今日は〇〇を持たせたのでやらせて下さい」「学習内容が変わった際等に、提供記録に記載して欲しい」といった個別の要望には随時対応し、行っている。

5、改善すべき点（改善目標）

【設問 15】緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。

改善目標…「どちらともいえない」か「いいえ」に○をした保護者が 7 名。緊急時の対応に関しては、契約時に渡す書類の施設しおりの最終ページに、大規模非常発生時の指定避難所・避難所の記載や、体調に変化が起きた場合、怪我をした場合、迷子の場合、緊急時、の 4 項目に分けて、それぞれの対応方法が説明されている。しおり内の情報は、口頭での説明を省いている事も多いので、保護者への周知には至っていない可能性が有り。防犯や感染症への対応は、施設毎によって多少の差異はあるが、内部研修やヒヤリハット事例等で職員間での共通認識を計ったり、東京都の健康安全部感染症対策課から注意喚起の報道発表があった場合等には、全施設に連絡が入り、予防強化と蔓延防止に向けて迅速に対応している。又、非常災害時を想定した一斉メール送信・連絡方法としてマチコミメールを活用、「ご登録のお願い」を保護者にしている（実例として、近々のインフルエンザの流行により、王子特別支援学校の高 2～3 年生が学年閉鎖となった際、インフルエンザによる学年閉鎖・学級閉鎖の場合、可能な限りご利用を差し控えていただく等、ご配慮ください、とする自粛呼びかけをマチコミメールにて 1/23 に配信）。マチコミメールに関しては、登録が確認出来ない保護者もいる為、継続してお願いをしていく。

【設問 16】非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。

改善目標…（保護者向け結果を踏まえて）昨年 8 月より第 2 分室→第 7 としての名称変更に伴い、管理責任者が甲種防火・防災管理の資格を取得。今年の 3 月末までに 2 回、自衛

消防訓練を実施する通知書を王子消防署に提出済み。避難経路・搬出方法の確認や災害に強い事業所作りの知識を消防庁提供の電子学習教材（Eラーニング）で学習する等の訓練を、どちらも職員を対象として行った。第7の性質上、利用者の登所時間も様々であったり、活動プログラムに公文式プリントの学習も設けられている為、利用者を交えた訓練の定期的な実施は難しいが、次年度以降、早下校の利用者を対象にしたり、学校休業日等の機会を使って、避難場所までの誘導を含めた、利用者を交えた訓練を実施していく。

以上